

平成 23 年 3 月 20 日(日)11:30 報告より

< J A グループによる被災地への“おにぎり”支援 >

- ・ 昨日、第 9 回 J A グループ宮城災害対策本部が開催され、次のような対応が決定・確認された。
- ・ 宮城県内では、おにぎり製造機を使って大量生産を行う予定（1 時間で 1,800 個のおにぎりを作ることができる）で、そのために必要なガス・水道・電気が使える「J A あさひな」をその拠点とする事が決定した。なお、作ったおにぎりを運ぶ車・ガソリンも課題として挙げられていたが、県庁との協議の結果、自衛隊が被災地へ運ぶことで決定した。（現在は山形県の J A グループの研修施設において、毎日 3,000~4,000 個のおにぎりを作って宮城県に運んでいるが、時間がかかるため宮城県内に製造拠点を移したいと考えていた。）
- ・ こうした経過を受け、3 月 22 日から 25 日の 4 日間、「J A あさひな」でおにぎりを作って被災地へ送ることとなった。当初、「J A あさひな」の女性部に協力を仰ごうと考えていたが、J A に集まることできないため、J A グループ宮城の各事業連から 2 名ずつ要員を出すことで合意した。
- ・ 問題は、プロパンガスの手配が可能かどうか（J A 全農県本部が確認中）、当日の段取りをどうするか、スケジュール的に 12 時半および 14 時半に予定数のおにぎりをつくるのが可能かどうかで、3 月 21 日のデモンストレーションの結果をもって、J A グループ宮城の各事業連には改めて相談することとなった。なお、前日のデモンストレーションには、J A 全農県本部のガス担当の職員が立ち会うことも決まった。
- ・ また、J A 全農県本部は、無菌パックのご飯（全農県本部が買い取ったものを無償提供）を津波で被災した 5 J A（仙台・名取岩沼・亶理・南三陸・いしのまき）に 2,000 パックずつ配送することを決定した。